



～ 夢ひとすじに～  
**宮原中だより**  
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

平成 29 年度 第 6 号  
平成 29 年 10 月 2 日 (月) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「学ぶ、<sup>まな</sup>真似び考え、そして自分で切り拓こう！」

こばやし ひろ とし  
校長 小林 広利

1981年から2002年まで21年に渡りTV放送され、国民的話題となった家族の物語「北の国から」。その脚本家 倉本聰さんの幻のオリジナル脚本をもとにした「學」というドラマが放送されました。

ドラマの主演で日本を代表する俳優 仲代達矢さん扮する祖父が、カナディアンロッキーを舞台に、13歳の孫 風間學に生きるということを教える「命の物語」です。放送に先立ち、脚本家 倉本聰さんと俳優 仲代達矢さんとの対談がありました。倉本さんは、北海道富良野市で役者や脚本家を目指す若者を指導する「富良野塾」を、仲代さんは、東京の自宅で俳優養成塾「無名塾」を創立し、自分の仕事に加え後進の指導も行っているそうです。その中で「学ぶ」ということについて対談する場面があったので、その一部を紹介します。

倉本 学ぶということについて、「無名塾」の場合どのようにとらえているのですか。

仲代 人の芸を見てそれをまねして自分のものにしていくことが本来のあり方だと思います。

倉本 でも今の若い人たちは、反応が鈍かったり、無感動だったり、創造力に欠けてきていると思うのですがどうでしょうか。ITと関係していると思えてなりません。

仲代 私はまず、塾生に本を読めと言っています。映像を見ることより、まず本を読んでイメージを作れと教えています。また、挨拶ができないとか礼儀がない人は論外です。そのような人は間違いなくオーディションで落ちるし、見る人に不快感すら与えます。

仲代 小・中・高・大学と優秀だったからか、自分を変えられない人がいるのには驚きます。そのような人は、無名塾の稽古で「それ違うよ」と言われただけでショックを受けるようです。習うのだから「それではだめだ」は当たり前だと思うのですが、その翌日から急に来なくなる若者も多いのに驚きです。今までちやほやされすぎていたのでしょうか。

倉本 注目の中で叱られショックで頭が真っ白になり、単に屈辱と受け止めてしまうのかもしれないと思います。指導を素直に受け入れられなくては、何をやってもうまくいかないと思います。

仲代 俳優になりたいがために学ぶ。そのために、先輩達から「それではだめ」と私も何度も言われてきました。芝居を見て「学ぶ」つまり「真似ぶ」ようになってほしいのです。

倉本 学ぶためには当然恥ずかしい思いをすることがあるのですから、それを自分で噛み砕きエネルギーにする必要があるでしょう。私には脚本を書くための師匠はいませんでした。これはというシナリオを何度も何度も書き写し、起承転結に分けるとどうなるのだろうと考え続けてきました。学び方やつかみ方は自分で考え出すしかないのかも知れません。

この対談を見て、俳優になりたいとか脚本家になりたいと願う若者が、他に仕事をもちながらも毎朝6時に塾に集まり、掃除から1日を始め、自分の夢をもち前進しようとしている姿に感動しました。しかし、そのような中、逆境をばねにする力をもう少しもてれば、夢を実現することも可能だった人いるのだろうと思うと残念にも思います。「キャリアを積んだ役者と若い役者が切磋琢磨し、塾長も新入塾生も舞台に立てば同じ役者、生涯が修行です。」という仲代さんの言葉が、頭に残りました。

宮原中の皆さんには、自分に自信と誇りをもってもらいたいと願い、先生方には、生徒一人ひとりの頑張りをよく見て、少しの変化でも誉めて自信をつけさせてほしいといつも話しています。現在、運動部では新人戦が進んでいます。勝負の結果は様々ですが、宮原中の皆さんは、大会会場においても、挨拶ができ、礼儀正しく、他者を思いやる行動ができていることをうれしく思います。自分の人生は自分で切り拓かねばなりません。学校生活や家庭生活で、今できることをしっかりとやることを土台として目標をもち前進してください。特に3年生は、進路を切り拓く時期となります。焦る気持ちになることもありますが、まずは一歩一歩進みましょう。自分の力で切り拓くしかないのですから！